

一般社団法人 National Clinical Database

2014-2015 年度事業報告書

National Clinical Database（以下 **NCD**）は臨床現場の医療情報を体系的に把握し、医療の質の向上に資する分析を行う。その結果を以て一般市民に最善の医療を提供し、適正な医療水準を維持することを目的とする。本年度は、主として以下の社会事業を実施した。

（1）医療情報を集積したデータベースの維持管理及び提供について

総合的案件

- **NCD** 症例登録システムの入力仕様の要望を各学会より受け付け、その改訂を行った。
- オープンソース活用による運用コストの低減、そして症例登録システムの再構築を実施した。

各論的案件

- 日本脳神経外科学会の参画に伴い、同学会用の症例登録システム機能の開発を行った（厚生労働省：医療施設運営費補助金「臨床効果データベース整備事業」の一環）。
- **NCD** 登録症例データを利用した集計・分析結果を確認できるフィードバック機能の開発を行った。
 - **Risk Calculator**： **NCD** 症例登録画面に術前情報等が入力された時点で、登録データに基づいて構築されたリスクモデルを用いて、術後死亡や合併症発症の予測率を表示する。
 - **Performance** 指標： 患者背景や術後死亡・合併症発症の発生率について、全国値と自施設診療科を比較する。患者の術前リスクに関する項目の集計結果および登録データに基づいて推定された自施設診療科のパフォーマンス（死亡率、合併症発症率等）が確認できる。
 - 手術件数： 術式ごとに手術件数を確認する。当該術式の手術件数について、全国件数における自施設診療科の位置（手術件数）を確認することができる。
- 従来より会員の先生方より要望の高かった症例アップロード機能の開発ならびに利用可能性の検証を行った。

(2) データベースを活用した医療水準の評価及び臨床研究の支援について

データ利用をともなう各研究プロジェクト、学術調査、アニュアルレポートに寄与する。

- 厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業） 研究代表 岩中督教授 「**National Clinical Database** を用いた医療の質向上に関する研究」
- 厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業） 研究代表 前田貢作教授 「重篤小児集約拠点にかかる小児救急医療体制のあり方に関する研究」
- 厚生労働科学研究費補助金（がん政策事業） 研究代表 今野弘之教授 「手術療法の標準化に向けた消化器外科専門医育成に関する研究」

(3) データベースの運用による関連団体との業務連携について

- 専門医制度等と連携した各種申請システムの運用及び開発を行った（外科、消化器外科、心臓血管外科、小児外科、呼吸器外科）。
- 独自運用してきたデータベースを **NCD** に移行する技術的検討及び開発を行った（日本乳癌学会、日本肝癌研究会、**JACVSD**、**JCCVSD**、**J-PCI**）。
- 経カテーテル大動脈弁治療（**TAVI**）用生体弁「サピエンXT」の使用成績調査について、**TAVR** 関連学会協議会が実施する **TAVR** 症例登録事業と連携して行った。
- **2015** 年 **11** 月 **21** 日（土）に **NCD** 教育セミナーを開催した。

(4) 法人の目的を達成するために必要な関連事業ならびに業務について

- データの質の検証業務（施設訪問等）。**NCD** データの正確性を確認するためアカデミアとしてサイトビジットを行った。訪問する施設は無作為抽出し、主として外科学会 **13** 項目のデータと原本の手術記録（カルテ等）とを照合。
- 社員学会の入社手続き業務（日本脳神経外科学会、日本病理学会）。
- 施設会費の請求に伴う検討および対応業務、施設会員規則の整備。
- **NCD** の業務内容を考慮したリスク管理や効果的な情報セキュリティ対策。
- プライバシーマーク取得に向けての準備。
- 広報活動の一環としてホームページの改修。

以上、今後も引き続き、**NCD** の情報管理にともなう技術的な安全と社会的な信頼を通じた安心の確保が求められる。